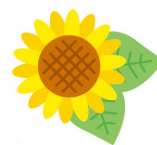


ひまわり



令和5年2月13日(月)

経済活動は道徳から

渋沢栄一



津田梅子



北里柴三郎



2024年に新紙幣が発行されます。各紙幣の肖像は、一万円札は「渋沢栄一」、五千円札は「津田梅子」、千円札は「北里柴三郎」。五千円札と千円札のデザイン変更は20年ぶりですが、一万円札は40年ぶりの変更です。

津田梅子は日本の女子教育に大きな役割を果たしました。北里柴三郎は血清療法の開発などで医療の発展に貢献しました。それでは、渋沢栄一とはどんな人物でしょうか。

彼は1840年に埼玉県で生まれました。当時、日本は鎖国中でした。しかし、1853年のペリー来航（黒船来航）で江戸幕府が開国を決定。激動の時代の始まりでした。その後、江戸から明治に時代が変わろうとしていた1867年、彼は幕府からの命令で、随員としてパリ万国博覧会に行くことになりました。

パリ万博で彼が見聞きしたものは、当時の日本では整っていなかったものばかりでした。フランスで大きな刺激を受けた彼は、その学びを日本の発展のためにいかそうと決意します。

とりわけ経済的発展においては、まず第一国立銀行（国立とついでるいが、国が作った銀行ではない。現 みずほ銀行）の設立を手がけました。また、東京瓦斯（現 東京ガス）、日本鉄道会社（現 JR東日本）など、多くの公益性の高い企業の設立に関わりました。また、教育発展のための大学設立や、生活困窮者や障がい者などのための社会公共事業にも貢献しました。

このような彼の功績をたたえ、渋沢栄一は「日本近代資本主義の父」と呼ばれています。そんな彼は、「そろばんの基礎の上に、まず道徳を置け」という言葉を残しています。会社が利益を追求することは自然なことです。しかし、手段を選ばずに利益を追求することを、彼は強く戒めています。だからこそ、「道徳」に重きを置いたのです。

見渡せば、東京オリンピック開催に関わる汚職事件のように、私利私欲だけを満たす品のない行いも散見されます。私たちは、経済活動においても、それが人の道にかなっているのかを絶えず問い続ける必要があるのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

